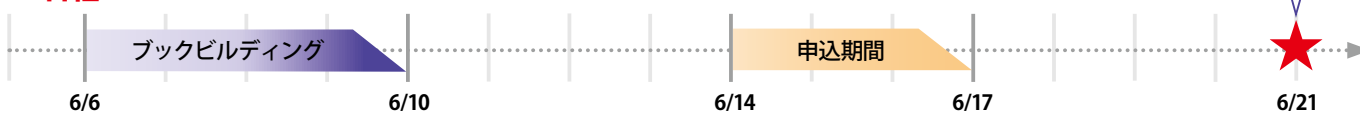


IPO銘柄 ストライク (6196・マザーズ)

コード	投資単位	公開株式数	仮条件 (上限 PER)	主幹事証券
6196	100 株	公募: 16.60 万株 売出: 6.15 万株 (OA3.41 万株)	2,940 円~ 3,440 円 (24.2 倍)	SMBC 日興証券

■ 日程



中小・中堅企業を対象としたM&A仲介会社

■ 事業内容

公認会計士と税理士が主体となっているM&A（企業の合併・買収）仲介会社。譲渡先とM&A仲介依頼契約を締結し、着手金を受領するとともに、買収先とM&Aが成約した段階で成功報酬を受領している。また、買収先とも仲介依頼契約を締結し、着手金と成功報酬を受領する。東京の本社以外に札幌、仙台、名古屋、大阪、高松、福岡に拠点をもち、全国の中堅・中小企業のM&Aに対応している。M&A仲介事業の単業態。

■ 特徴

セミナーの開催、広報誌の発行、ウェブサイト「M&A市場SMART」などメディアを使った情報配信に加え、直接営業やダイレクトメール、紹介などによって案件探索を行い、案件化。マッチングは譲渡希望先の条件、事業特性を踏まえ、買収ニーズに関する社内データベースを活用して買収候補先をリストアップ。選定先に提案を行っている。「M&A市場SMART」には企業名を伏せたまま案件を掲載し、買収に関心のある企業を募っている。

アナリストコメント

■ 定量分析

16年8月期の非連結経常利益は前期比12.4%増の6億1,500万円を計画する。オーナー経営者の高齢化に伴う後継者問題を背景にM&A市場は拡大傾向にある。事業特性上、着手金や想定成約報酬などを積み上げて業績予想を作成しているため、数値がやや保守的となる傾向がある。

■ 定性分析

中小企業の後継者問題という社会問題を追い風として業績を伸ばしている。比較対象でもある日本M&Aセンター、M&Aキャピタルパートナーズは株式市場で高い評価を得ており、同社も同様の展開となることが期待される。これらの競合企業と比較した割安感も手掛かりとなりそうだ。

■ 需給状況

仮条件の上限で試算した市場からの吸収金額は約9億円。ベンチャーキャピタル保有株はなく、公開してすぐに市場に流出する性格の大株主もいない。AWSホールディングスと同日上場だが、資金分散の影響を受けるとしても、人気化見込みの当社の方ではないだろう。

(小泉健太)

■ 類似企業

ストライク(6196・マザーズ)	予想PER24.2倍 (仮条件上限)
日本 M&A センター (2127・東証 1 部)	予想PER49.2倍
M&A キャピタルパートナーズ (6080・東証 1 部)	予想PER33.8倍

■ 引受証券

SMBC 日興証券、SBI 証券、岡三証券、丸三証券、極東証券、エース証券

業績・財務指標

	売上高 (百万円)	前年比 (%)	経常利益 (百万円)	前年比 (%)	純利益 (百万円)	前年比 (%)	EPS (円)	1株あたり 年間配当金(円)
14年8月期(実績)	590	▲ 28.2	94	▲ 69.7	81	▲ 54.8	32.1	6.4
15年8月期(実績)	1,423	2.4倍	547	5.8倍	329	4.1倍	125.6	22.0
16年8月期(会社予想)	1,861	30.7	615	12.4	398	21.1	142.1	27.0

※ 16年2月に株式分割(1株→500株)を実施。14年8月期、15年8月期のEPSは遡及修正

	発行済み 株式総数(株)	総資産 (百万円)	純資産 (百万円)	資本金 (百万円)	BPS (円)	自己資本比率 (%)	自己資本当期 純利益率(%)
14年8月期	5,110	782	692	30	271.0	88.4	12.0
15年8月期	5,544	1,696	1,177	114	424.7	69.4	35.2

※ 14年8月期および15年8月期のBPSは遡及修正

大株主上位(上場前)

氏名または名称	所有株式数(株)	所有割合(%)
1 荒井 邦彦	914,500	30.76
2 K&Company	900,000	30.27
3 鈴木 伸雄	150,000	5.04
4 石塚 辰八	145,000	4.88
5 三井住友信託銀行	134,000	4.51
6 大同生命保険	83,000	2.79
7 石垣 圭史	80,500	2.71
7 金田 和也	80,500	2.71
9 渋谷 大	58,000	1.95
10 西武信用金庫	50,000	1.68
10 多摩信用金庫	50,000	1.68

経営陣

役職	氏名
代表取締役社長 企画広報室長	荒井 邦彦
取締役副社長 執行役員 企業情報 部統括部長	鈴木 伸雄
取締役 執行役員 管理部長	中村 康一
取締役	田代 正明
常勤監査役	荒木 二郎
監査役	寿藤 聡
監査役	黒松 百亜

モーニングスターIPOレポートの読み方

特 徴

モーニングスター IPO^(※1) レポートでは、日本国内の取引所に新たに上場する銘柄を取り上げ、モーニングスターが位置する中立的な第三者としての立場から IPO に関する情報を提供いたします。ブックビルディング^(※2) が始まる前にレポートを提供することにより、IPO への参加を検討している投資家にとって有用な情報となるでしょう。モーニングスター IPO レポートには、企業名・コード・公開株式数など基本情報やブックビルディング期間・申込期間など IPO 日程のほか、モーニングスターの担当アナリストによるコメントを掲載いたします。

※1 IPO (Initial Public Offering)：新規株式公開。

※2 ブックビルディング：引受証券会社が機関投資家などの意見をもとに決定した仮条件を投資家に提示し、投資家の需要がどの程度あるかを把握することによって、マーケットの動向に即した公開価格を決定する方法。一般的に需要積み上げ方式と呼ばれる。

項目説明

■ 事業内容

新規上場する企業の事業概略を解説します。主要製品やサービスのほか、セグメント別の売上高構成比率などを記載。新規上場時の事業の状況や、先行きの見通しなども交えて分かり易くお伝えいたします。

■ 特徴

新規上場企業の設立経緯から現在の事業環境、ビジネスモデルや事業の強み、顧客動向、業績内容、海外展開、経営陣など様々な観点から特筆すべきエッセンスのみを抽出し、掲載いたします。

■ 定量分析

新規上場時に開示される前期、前々期の業績実績と今期の会社計画を用い、業績の成長性や収益性、財務安定性の面から新規上場銘柄を分析いたします。

■ 定性分析

新規上場銘柄が持つ事業の特性や事業環境、セクター動向などを踏まえ、定性的な評価をするほか、足元の株式市場の状況などを考慮して、マーケットから見た新規上場銘柄に対する見方なども掲載します。

■ 需給状況

公募・売り出しの株数と仮条件をふまえ、市場からの吸収金額を試算するほか、足元の新興市場の動向、類似企業の株価推移、ベンチャーキャピタルによる保有株放出の可能性なども考慮し、上場初日の需給状況を予想いたします。

■ 類似企業

新規上場企業と同じ業種に属する競合他社や類似企業を取り上げて PER を併記いたします。PER の水準は初値の参考指標として有効です。